

BRC Top

お知らせ

ご挨拶

事業の概要

技術研修

組織図

各室概要

公開情報

リソース検討委員会

個人情報保護

採用情報 

アクセス

リソース検索

利用方法

提供申込み

寄託申込み

提供手数料

支払方法

総合カタログ

利用者登録

メールニュース

関連リンク

お問い合わせ先

公開情報

細胞運命情報解析技術開発サブチーム

三好 浩之 サブチームリーダー

1. 設定した目標の妥当性

1) BRCで実施する意義があるか

“世界最高水準のバイオリソースの整備”というセンターの目標に合致しているか？

iPS、Stem cellsに関するもので、センターの目標に合致する。将来的には、ヒトの系に移行し、iPSの安全性の評価、基準作りに貢献することも考える。

BRCの目標達成に貢献する“道筋”は明確か？

方法論はしっかりしている。iPS研究に関しては、BRCのミッションも考え、iPSの標準化（品質管理）に協力することも重要。

2) 5年間で達成可能な目標か？

現段階では、到達地点は不明だが、考えられる成果は望める。進展が著しいので途中での軌道修正もしばしば必要と思われる。

3) 国際的な視野に立った目標か？（国際的なリーダーシップにつながる目標か？）

十分国際的競争力があり、リーダーシップにつながる目標である。

ことに、レンチウイルスベクターは国際性、独創性が高い。

2. 目標達成のための計画の妥当性

1) 目標達成に向けての具体的な計画であるのか？

重要課題に正面から取り組んでいる。レンチウイルスを用いたiPS細胞の作製については柔軟に対応する。

2) センターとして優先度の高い、必須な計画か？

レンチウイルスの改良、利用拡大は、BRCのテーマに適合し、優先度は高い。

3) 独創性の高い計画か？（単なる後追いではないか？）

レンチウイルスベクターの開発は独創性が高い。

4) 研究資源（予算・人員）範囲内で実現可能な計画か？

研究を進めながら、テーマを、最もアドバンテージのあるところに絞っていくとよい。

5) 計画を実施するために必要な経験、実績を有しているか？

幹細胞研究の技術力は高く、十分な経験は有している。

3. その他

iPS研究に関しては、理研内外に共同研究を積極的に進めるべき。



独立行政法人 理化学研究所 バイオリソースセンター
〒305-0074 茨城県つくば市高野台3丁目1番地の1
brcqa@brc.riken.jp